

検査内容変更のお知らせ

謹啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、このたび下記項目につきまして、検査内容を変更させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

- カルシトニン
- PIVKA-II 精密測定
- 抗核抗体
- 寒冷凝集反応
- トロンビン-アンチトロンビンIII複合体(TAT)
- リポ蛋白分画泳動/電気泳動法(アガロース膜)

変更日:2016年3月25日(金)受付分より

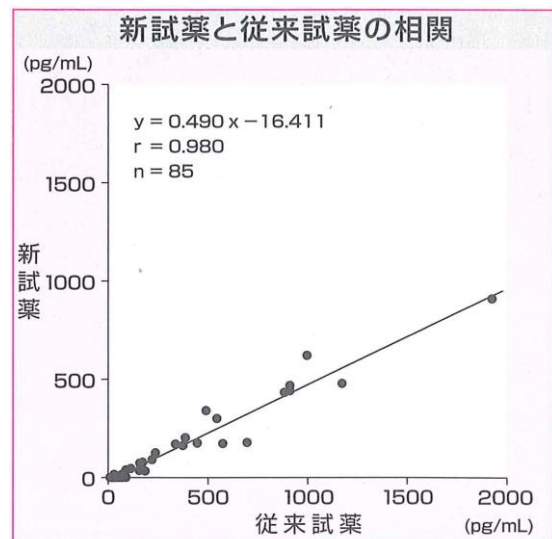
裏面に続きます。

◆ カルシトニン

従来試薬販売中止のため、国際標準品を用いた測定試薬に変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、所要日数、検査方法、基準値、報告範囲、報告桁数を変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.5mL	同左
所要日数	4～6日	5～7日
検査方法	ECLIA法	RIA・2抗体法
基準値	男性:5.15以下 女性:3.91以下	年齢 男性 女性 20～29 34.4～89.2 29.4～68.6 30～49 30.9～120.1 17.1～58.7 50～69 16.6～95.4 21.6～54.0 70～90 26.2～49.0 17.0～55.8
報告単位	pg/mL	同左
報告範囲	0.50未満～最終値	12.5以下～最終値
報告桁数	少数第2位	整数
備考	ビオチンを投与している患者(1日の投与量5mg以上)からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施して下さい。	



BML検討資料

【検査方法の参考文献】

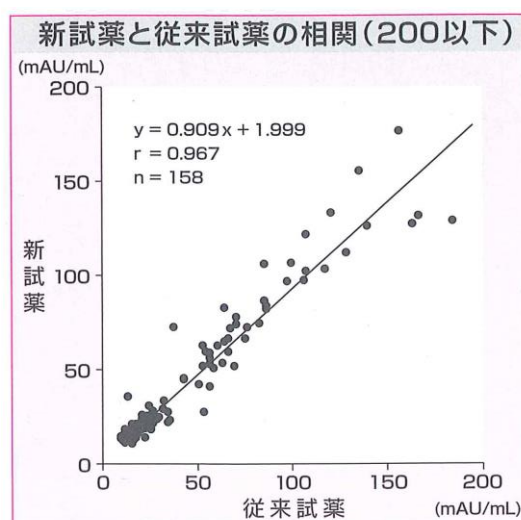
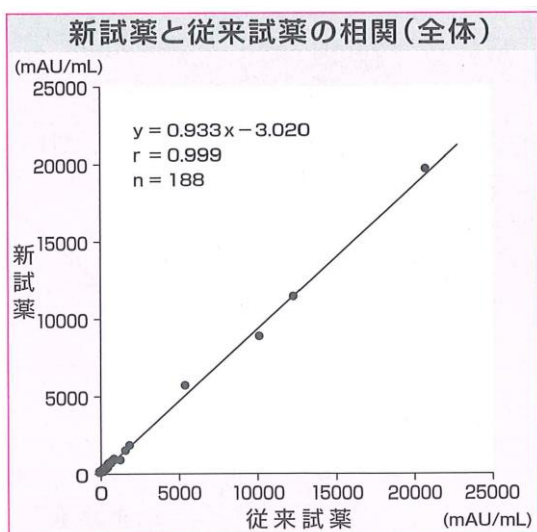
北川 亘, 他:医学と薬学 72, 97-108, 2015.

▶ PIVKA-II 精密測定

測定精度の向上を期し、検査試薬を変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、検査方法、報告範囲を変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.6mL	同左
所要日数	3~4日	同左
検査方法	CLIA法	ECLIA法
基準値	40未満	同左
報告単位	mAU/mL	同左
報告範囲	6未満~最終値	10未満~75000以上
報告桁数	整数	同左
備考	チャート報告書	同左



BML検討資料

【参考文献】

田中一平, 他:細胞 47, 561-565, 2015.

抗核抗体

従来試薬と同等の性能を有する測定試薬に変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、基準値、報告形式(報告範囲)を変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.3mL	同左
所要日数	3～5日	同左
検査方法	蛍光抗体法	同左
基準値	40倍未満、(-)	80倍未満、(-)
報告単位	倍	同左
報告形式 (報告範囲)	抗核抗体半定量/FA(設定なし) 抗体価(40未満～10240以上) HOMOGENEOUS型(40未満～10240以上) SPECKLED型(40未満～10240以上) NUCLEOLAR型(40未満～10240以上) CENTROMERE型(40未満～10240以上) PERIPHERAL型(40未満～10240以上) 核膜型(40未満～10240以上) PCNA型(40未満～10240以上) PCNA様型(40未満～10240以上) GRANULAR型(40未満～10240以上) 細胞質型 (-)、(+) 	抗核抗体半定量/FA(40未満～最終値) 設定なし HOMOGENEOUS型(40未満～最終値) SPECKLED型(40未満～最終値) NUCLEOLAR型(40未満～最終値) CENTROMERE型(40未満～最終値) PERIPHERAL型(40未満～最終値) 核膜型(40未満～最終値) PCNA型(40未満～最終値) PCNA様型(40未満～最終値) 設定なし 細胞質型 (-)、(+)* 紡錘体型 (-)、(+)* ゴルジ体型 (-)、(+)*
報告桁数	整数	同左

*従来法の「細胞質型」「紡錘体型」「ゴルジ体型」は、まとめて広義の「細胞質型」と報告いたします。

一致率表

(n=145)

新	10240								1	1
	5120								2	2
	2560						2	6		
	1280				1	1	6	1		
	640			1	4	8				
	320		1		16		1			
	160		1	1	15					
	80		4	10						
	40	2	4	1						
	40未満	53								
倍	40未満	40	80	160	320	640	1280	2560	5120	10240
		従来								

BML検討資料

◆ 寒冷凝集反応

基準値の見直しを行いました。参考文献に準じた基準値へ変更させていただきます。
参考文献に準じた基準値へ変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.3mL	同左
所要日数	4～5日	同左
検査方法	HA法	同左
基準値	64倍未満	32倍未満
報告単位	倍	同左
報告範囲	4未満～最終値	同左
報告桁数	整数	同左

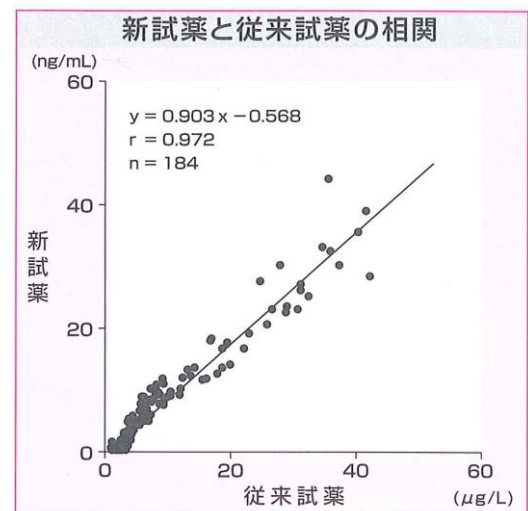
【参考文献】

金井正光:臨床検査法提要(改訂第34版), 920-921, 2015. (金原出版)

トロンビン-アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)

測定試薬を従来試薬と同等の性能を有し、検査精度が向上した試薬に変更させていただきます。
この変更に伴い、検査方法、基準値、報告単位、報告範囲を変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.4mL	同左
所要日数	3~4日	同左
検査方法	CLEIA法	EIA法
基準値	4.0未満	1.0~4.1
報告単位	ng/mL	μg/L
報告範囲	0.4未満~120.0以上	1.0未満~60.0以上
報告桁数	小数第1位	同左



BML検討資料

▶ リポ蛋白分画泳動/電気泳動法(アガロース膜)

従来試薬販売中止のため測定試薬を変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、基準値を変更させていただきます。

	新	従来
検体必要量	0.3mL	同左
所要日数	3~5日	同左
検査方法	電気泳動法(アガロース膜)	同左
基準値	α M: 27~51 F: 33~53 pre β M: 8~24 F: 7~21 β M: 35~56 F: 34~52	α M: 25~50 F: 35~51 pre β M: 8~32 F: 7~21 β M: 33~55 F: 38~51
報告単位	%	同左
報告範囲	0~100	同左
報告桁数	整数	同左

